

「えべべんちゅ」フリーペーパープロジェクト

山本ゼミナール・フィールド実践

山内 貴紀

原田 祐介

第1章「えべべんちゅ」とは何か？

1節「フリーペーパー」とは何か？

フリーペーパーとは、私たちの身近な生活情報を広告として掲載し、その地域に無料で配布する雑誌のこと。例として「ホットペッパー」や「ふりっぱー」がある。

2節「えべべんちゅ」のフリーペーパーが始まったきっかけ

昨年（平成24年）の1月22日（日）に「co.ラボのっぼ」というイベントが江別市の野幌公民館で行われ、これは江別市の活性化をすることを目的として、江別市の行政や地域住民、大学生と一緒に地域活性化を考え議論し合うイベントである。本イベントに参加した一人の学生が、地域活性化するための手段として学生による「フリーペーパー」の発刊という提案を発表しました。

3節「えべべんちゅ」とは何か？

江別の4大学の学生が作っているフリーペーパーということで、前節にもあった「co.ラボのっぼ」のイベントで江別の地域活性化に興味をもち、活性化を目指す学生が集まってこの「えべべんちゅ」という名のフリーペーパーを制作しており、本大学の札幌学院大学だけでなく北翔大学や酪農学園大学、北海道情報大学の学生と一緒に活動している。この「えべべんちゅ」という名前の由来は、江別人をイメージさせるために、沖縄の方言と北海道の方言を合わせたものである。

第2章「えべべんちゅ」の活動内容について

1節 全体の流れ

活動内容としては企画会議を通じて、冊子のコンセプトやページ構成、掲載内容などについて考え、企画ごとに班に分かれて、それぞれの班で企画内容について話し合い、記事として載せたい内容を決める。次に取材対象を決め、企画の内容で聞きたいことに取材先に行き話を聞き、聞いてきた内容などのまとめを踏まえて記事書きやページデザインを行

う。その後に発刊する上での部数検討を行い、そこでは印刷代などの予算に応じて、冊子を置く場所や新聞折り込みなど配布場所や方法などを交えながら検討していく。発刊部数が具体的に決まった後は、印刷会社に発注を行い、発刊という流れで活動を行っている。

2 節 「えべべんちゅ」創刊第 1 号の内容

創刊第 1 号は、A6 の 8 ページ構成で、内容は以下のとおりである。

- ・ 冊子表紙：メンバー写真・タイトル
- ・ 1 ページ目：農業生産法人（株）「輝楽里」の特集
- ・ 2 ページ目：「えべべんちゅ」フリーペーパー制作代表者・江別の社会人へのインタビュー紹介
- ・ 3～4 ページ目：江別の隠れ家飲食店の特集
- ・ 5～6 ページ目：メンバーの一言、制作者・協力者紹介
- ・ 冊子裏表紙：MAP・店舗情報



「えべべんちゅ」創刊第 1 号（上図）

3 節 冊子がもたらした反響

「えべべんちゅ」創刊第 1 号がもたらした反響については、冊子を置かせていただいた店舗が広告掲載に賛同してくれたことや、江別の大学の学生のみならず札幌圏の大学の学生からも興味を持ってくれたことで、「えべべんちゅ」第 2 号の発刊に向けて、北星学園大学と北海学園大学の学生とも連携している。

4 節 「えべべんちゅ」創刊第 2 号の内容

「えべんちゅ」創刊第2号のページ構成はA4の16ページとなっており、冊子のコンセプトについては「江別を知る」ということで、内容は「街歩き」・「取材リレー」・「江別人紹介」・「大学紹介」・「メンバーの一日」・「メンバー募集」・「Memorial Ebebenchu」・「その他概要」・「元気's Bar」・「単独企画」という内容となっており、江別市についてさらにピックアップした冊子内容となっている。



「えべんちゅ」創刊第2号（上図）

第3章「えべんちゅ」活動実績について

1 節 活動実績

創刊第1号は3万部を発行し、実際に冊子を江別市内の各JRの駅（大麻駅・野幌駅・高砂駅・江別駅・豊幌駅）や札幌市内のJRの駅（厚別駅・森林公園駅）、各大学（北翔大学、札幌学院大学、酪農学園大学、北海道情報大学、北海道大学）、江別市内各店舗、公共施設に置かせていただきました。JRの駅に関しては、各駅30部ずつ置かせていただいたが、冊子がすぐになくなった駅も多かったため、随時冊子の補充を行った駅がほとんどであった。大学に関しては、当初、江別の4大学だけに置く予定だったが、さらに札幌の大学に通っている方々にも知ってもらえたらいいという意見もあったので北海道大学にも置かせていただいた。冊子の配布だけでなく、4月21日には「FM North Wave」のラジオ番組の

「STATION DRIVE SATURDAY」に出演。5月31日にはNHK札幌の「この街きらり」という番組にも出演し、この番組では、「えべべんちゅ」フリーペーパーの代表者を含むメンバーが集まり、インタビューや活動風景を特集していただいた。6月5日には、江別版のフリーペーパー「ユベオツの風」にも「えべべんちゅ」創刊第1号の活動実績が掲載されている。4月24日の北海道新聞の江別版には、学生がフリーペーパー創刊ということについての記事にも掲載された実績もある。

2節 「えべべんちゅ」の強み

一つ目はひとつの大学だけで企画から発刊をしているわけではなく、江別4大学の学生たちでフリーペーパーを制作しているということで、他大学と連携していること。二つ目は広範囲に知れ渡っているということで江別市内の大学はもちろん、駅やお店、公共施設にも配布していることから、広い情報範囲に知れ渡っていること。三つ目は江別について特集されているフリーペーパーということで、地元に着しているローカル性に富んでいるということで、これらの項目が「えべべんちゅ」の強みであるといえる。

3節 創刊第1号での学び・2号に向けての改善点

大学の講義だけでなく実際に外に出て、大学の講義だけでは得られないような現場での実践経験の大切さ、何かひとつの成果物をつくることにおいて、個人の能力だけでなく、チームでまとまって作る大切さや、情報をいかにうまく共有していく大切さを学びました。2号発刊の改善点としては班員、制作リーダーとの情報共有を常に頭に置いて行動するということがあげられる。また、報告、連絡、相談を徹底していくこと。個々のメンバーが計画に基づき目的を持って活動をしていくことも今後活動していく上での改善点である。

第4章 発刊の上での問題点・まとめ

1節 創刊第1号の問題点

問題点としては会議をしていくに連れて、議題の内容が難しくついていけない場面が多々あったということ。初めての活動だったということもあり、班員同士でのコミュニケーションがうまくいってなかったということ。メンバー同士での情報共有が不足していたということ。今後の方針を考えるにあたって、メンバー内で意見の食い違いがあったということがあげられる。

2節 発刊第2号の問題点

問題点としては、発刊第1号の反省点を完璧にいかしきれなかったことがあげられるの

と、冊子の発刊時期が大幅に遅れるということがあったこと。それは冊子のデザインを担当している学生と制作代表者との連携がうまくとれていなかったのが原因だったと思われる。次に活動資金についての予算問題です。各江別市内の大学祭への出展、地域イベントに参加して活動資金を稼いでいたのだが、今後活動を続けるにあたって、広報活動や運営資金として使うための協賛金が出るかどうか分からないのが現状である。

3節 まとめ

今後活動を続けていく上でのビジョンとしては、第一に江別市の一部だけでなく江別市全体の活性化につなげていくことである。理由としては、現在、野幌商店街では江別の大学の一部の学生がさまざまな事業を行っていて以前よりは活性化されているのだが、江別駅付近は、イベントをやっているときしか活性化されていないからである。第二にフリーペーパーを情報発信の1つの手段として役立てるようにし、もっと皆さんの知らないような江別市の魅力を紹介していくこと。第三にこれらをふまえて、江別について幅広い年代でもわかりやすいようにもっと江別市民にも江別の事を知ってもらおうということ。以上の3つのビジョンを明確にしてこれからも活動していきたいということが今後の目標である。